

発表日 2021/07/16  
タイトル 「RSウイルス感染症」の流行が続いています！  
担当 健康福祉部 感染症対策局感染症対策課  
連絡先 感染症対策課  
TEL 054-221-2986



## - 危機管理情報 - 「RSウイルス感染症」の流行が続いています！

### 1 要旨

乳幼児の代表的な呼吸器感染症であるRSウイルス感染症は、毎年冬季を中心に流行しています。昨冬は、新型コロナウイルス対策の徹底のためか、RSウイルスの流行はありませんでした。

今年は、全国的に例年にはない5月頃からの流行が続き、本県でも患者報告数が例年を大きく上回っています。患者の約7～9割が2歳以下の乳幼児です。乳幼児のマスク着用は危険なうえ、乳幼児自身での手洗い、ソーシャルディスタンスの確保は困難です。子ども同士の感染を防ぐことは難しいので、手洗いがしっかり出来る年齢以上の方々が乳幼児と接する時には、改めて、マスク着用と十分な手洗いの励行をお願いします。また、お子様に咳や発熱等の症状が見られ、水分や食事の摂取が少なくなってきたら早目に医療機関を受診してください。

8.67 ⇒ 6.64 ⇒ 7.33  
(第25週 (6/21～6/27)) (第26週 (6/28～7/4)) (第27週 (7/5～7/11))

「定点当たり」は、県内89の小児科定点医療機関における1機関当たりの1週間の患者数です。

### 2 感染予防対策（乳幼児と接する時に！）

- 特に乳幼児の近くではマスクを着用しましょう！
- 感染予防の基本は手洗いです！今一度十分な手洗いの励行をお願いします！
- 乳幼児のお世話をする前には、必ず手洗いをしましょう！
- アルコール製剤による手指消毒も有効です！
- 上の兄弟が1歳以下の乳児の近くで咳やくしゃみをしないように、気をつけましょう！

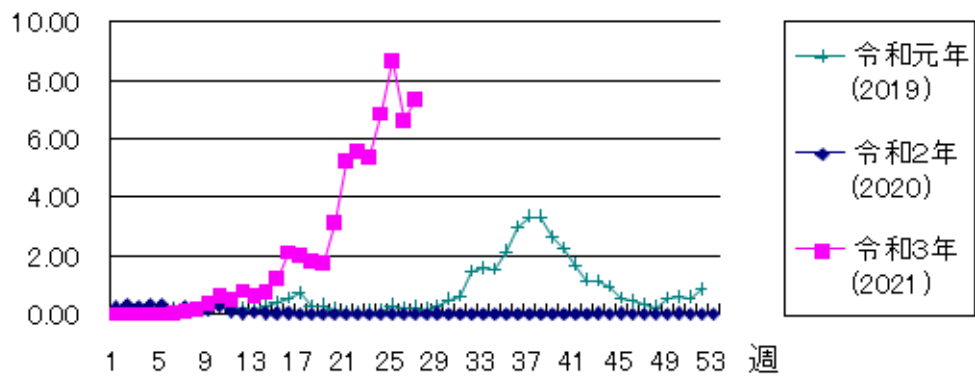
### 3 受診の目安

- 咳や発熱等の症状が見られ、呼吸が苦しそう、ミルクや食事の量が減った、夜眠れていないなどの症状がある場合です。
- 特に小さく産まれたお子さんや、心臓や肺などに持病のあるお子さんは、重症化のリスクが高いため早めの受診が必要です。
- 新型コロナウイルスは、家族内でほとんどが大人から乳幼児にうつるので、家族の大人や兄弟で発熱、のどの痛み、咳、味覚・嗅覚障害の人がいなければ、乳幼児が新型コロナウイルス感染症となることはありません。

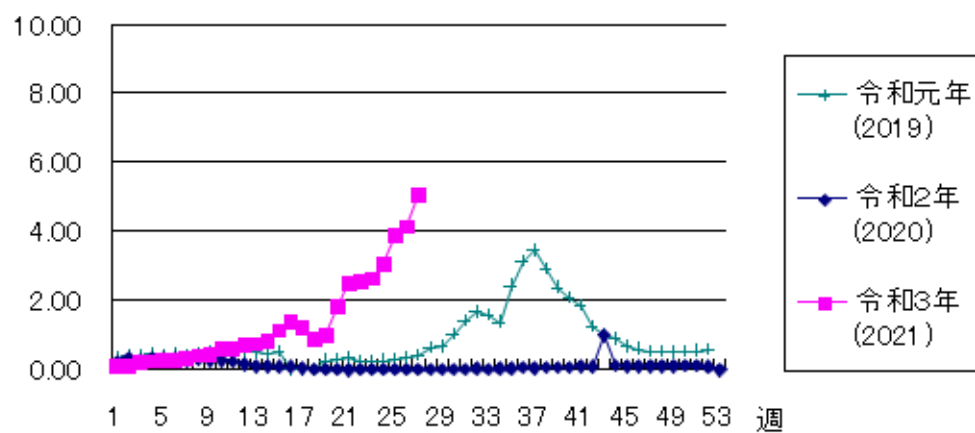
### 4 RSウイルス感染症

- 1歳までに半数以上が、2歳までにはほぼ全員が1度は感染するとされています。免疫ができていくため、何度も再感染を繰り返します。
- 感染しても年長児や大人は軽い風邪症状ですが、生後数か月の乳児が感染した場合、気管支炎や肺炎といった重篤な症状を引き起こすことがあります。
- 感染経路は感染者の咳やくしゃみによる飛沫感染や、ウイルスの付着した手指や物品等を介しての接触感染が主なものになります。
- 感染すると、通常4～6日の潜伏期間を経て、発熱、鼻汁等の症状が現れます。
- 現在、ワクチンや特効薬はありません。呼吸が苦しく食事がとれないお子さんは、入院して点滴、酸素投与などの対象療法（症状を和らげる治療）により、自然回復を待ちます。

静岡県のRSウイルス感染症病罹患数推移(3年)



全国のRSウイルス感染症病罹患数推移(3年)



【参考：厚生労働省HP】RSウイルス感染症Q&A

[https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/rs\\_qa.html](https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/rs_qa.html)



【参考：厚生労働省HP】手洗いパンフレット

<https://www.mhlw.go.jp/content/11130500/000515911.pdf>

